

湿気

むせ返るような湿気がもうもうと立ちこめ
息苦しさに人々は苛立っていた
帰途につく労働者達は
働いていた時よりも大粒の汗を流していた
僕はたまらずシャツを買い込んだ
つまり、洗濯とアイロンかけの回数を減らすため
脂ぎったはげ親父共は、この時とばかり
ためらうことなくピヤホールへと右向いた
若い男共は、あたりかまわず女達に囁いていた
「ねえ、どっかで休んで行こうよ」
もちろん、それは何処かで団子を食べようということではなく
いや、それとも・・・似たようなものだ！
その時、かねてからわなないていた雲は
ざっとばかりに小便をぶちまけた
それが小便だった証拠には
むっと異臭が鼻をついた

(1991.6.27)